

# 産業建設常任委員会記録

平成30年9月26日

【開催日】 平成30年9月26日

【開催場所】 第1委員会室

【開会・散会時間】 午後2時50分～午後3時28分

【出席委員】

委員長	中村博行	副委員長	岡山明
委員	奥良秀	委員	河崎平男
委員	水津治	委員	中岡英二
委員	藤岡修美		

【欠席委員】

なし

【委員外出席議員等】

なし

【執行部出席者】

建設部長	森一哉	建設部次長兼土木課長	榎坂昌歳
土木課技監	泉本憲之	下水道課工務係長	小路弘史
監理室技監	中村景二		

【事務局出席者】

局次長	石田隆	書記	光永直樹
-----	-----	----	------

【審査事項】

- 1 議案第88号 東下津地区内水対策施設整備工事（電気機械設備工事）請負契約の締結について（土木）

---

午後2時50時分開会

---

中村博行委員長 それでは産業建設常任委員会を開催いたします。早速審査に入ります。まず、審査番号1番、議案第88号、東下津地区内水位対策施設整備工事電気機械設備工事請負契約の締結についてであります。まず、執行部のほうの説明を求めます。

森建設部長 申し訳ございません。今日、午前中の本会議場で山田議員さんのほうから業者の見積りが何社かということについて私がお答えできなかったのですが、できればこの場で担当のほうからお答えしたいと思いますのですがよろしいでしょうか。

中村博行委員長 はい。お願いします。

小路下水道課工務係長 下水道課の小路と申します。よろしくお願ひいたします。予定価格表作成用の見積り依頼に関しましては、電機メーカー4社と準市内業者1社、計5社へ見積り依頼をいたしまして4社から回答をいただき、それをもとに予定価格を作成いたしました。

中村博行委員長 それでは議案のほうの説明を求めます。

榎坂建設部次長兼土木課長 それでは、議案第88号の説明をいたします。今回議案として追加上程いたしました、東下津地区内水対策施設整備工事（電気機械設備工事）は、平成30年9月7日に入札が執行され、株式会社安川電機と太陽産業株式会社の共同企業体である、安川・太陽共同企業体が3億4,560万円で落札いたしました。工事の期間については債務負担により平成32年3月31日までを予定しています。本年度の支出は1億3,820万円としております。請負契約を落札者と締結するため、議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第2条の規定により議会の議決を求めるものでございます。なお、東下津地区の内水対策については、平成27年度に基本計画を策定し、平成29年度より工事着手しています。今回の工事の主な内容は、ポンプ施設

本体3台のうち1台とその動力である自家発電機、それらを制御する制御盤の製作と設置をいたします。説明を終わります。御審議のほどよろしくをお願いいたします。

中村博行委員長 それでは説明が終わりましたので質疑に入ります。

河崎平男委員 議場で完成年度は31年度末ということでありましたよね。実際3月31日までということですか。

榎坂建設部次長兼土木課長 今回の工事は、32年の3月31日まででございます。

河崎平男委員 正確で32年というのが出てきますか。元号が変わるんじゃない。

榎坂建設部次長兼土木課長 委員言われるとおりでございますけど、今現在については、こういうふうな表示をしております。

中村博行委員長 次の元号が決まらんけえね。ほかに。

藤岡修美委員 ポンプの能力は毎秒何トンか分かりますか。

榎坂建設部次長兼土木課長 毎秒1トンでございます。

奥良秀委員 市内業者というのが今この山陽小野田市は何社ありますでしょうか。

中村監理室技監 監理室の中村と申します。よろしくをお願いいたします。今、会社数の名簿を持ってきておりませんで、正確な数字が申し上げられませんのでまた後で調査しまして、御報告したいと思っております。

奥良秀委員 入札を行う前の準備段階として、設計をされると思うんですが、設計単価の金額をいただいた市内業者が1社いると言われましたが、その1社というのは、今回、この中に入っているんでしょうか。

小路下水道課工務係長 市内業者、準市内業者1社から見積りを徴取させていただきまして、今回の入札がJ V公募という形をとっておりますので、当初の段階ではJ V公募では、手を挙げられてはいません。

奥良秀委員 J Vか1社ということなんですが、当然最初に1社ということで、見積りを取られたところで、例えばJ V組まれてやられたところがありますか。

小路下水道課工務係長 今回のケースではJ Vとして参加はありませんでした。

岡山明副委員長 本会議でもあったんですけど、長谷川委員のほうからあったんですけど、入札率66%。設計の段階うんぬんっていう話がでたと思うんですが、この辺の回答というのが明確に理解できなかったんですけども、もう一度説明をお願いします。

小路下水道課工務係長 設計価格予定価格に関しましては、先ほどの4社、回答がありました。見積りを参考に平均値をとりまして、査定率というものを掛けさせていただいて製品の金額を決定しております。しかしながら、入札時の入札金額とは、先ほどもありましたとおり、差がありましたので、入札後に低入札価格調査を実施しました。内容としましては、その価格で入札した理由、見積りの検討内容。あと手持ちの工事の状況。あと配置予定者の状況。あと手持ちで持たれている機器とか資材の状況等を調査させていただきまして、今の入札価格でも問題なく工事が施工できるということを確認しまして、管理室のほうに調査結果として相違なしということで報告しております。

中村博行委員長 その辺りが一番今日の議論の対象になると思っています。本会議場で予定価格を5億8,000万、それに対して余りにもかい離がひどいのではないかということでその原因がどこにあるのかというところが皆さん一番聞いたところだと思うんですが、その差が大きい理由、原因について。

小路下水道課工務係長 入札の結果からいきますと、一番低い業者さんが今の3億4,560万という金額になりまして、二番目が3,000万ぐらい開きがありました。それで一番高い業者としましては5億の予定価格に近い業者もいらっしゃいましたので、その辺りの今回の工事に関しての受注の考え方っていうのはそれぞれ違うと思うんですが、一番低い今回の落札業者様の低入札の理由を確認したところ、やはりこういう大きなポンプ場の事業というのはなかなか近年でいうと珍しい事業であるということと、ずっと継続して山陽小野田市とお付き合いをしていきたいということで、今回の工事を利益度外視というところちょっとおかしくなるかもしれませんが、利益度外視に近い状態でも何としても受注したいということを説明の中で伺っております。

中村博行委員長 その辺が議会のほうもすごいデリケートになっている点なんですよ。というのは理科大が非常な大きな問題であったということで、あい設計ですね。あのときは、本当にそういう意味で、言うなれば超低価格で決められたんですが、今回の最低価格というのはどの辺に設定をされていたんですか。

中村監理室技監 このたびの工事は山陽小野田市の建設工事等に係る低価格入札に関する実施要綱というのがございまして、その中に調査基準価格を設ける工事ということになっております。それはなぜ最低制限価格設定せずに、調査基準価格を設定しているかっていうことは、電気工事や機械器具設置工事等は、予定価格に占める見積りの割合が高く、適切な予定価格かどうかの判断が難しいからだと考えております。よってこのた

びの工事は電気工事ですので、調査基準価格を設定し、低価格調査を行い落札者を決定し、契約の内容に適した履行がされるということが確認できたので、契約を進めているってということになったと思っております。

中村博行委員長 調査基準価格というのは幾らになっておりますか。

中村監理室技監 調査基準価格は4億8,584万6,000円、税抜きとなっております。

岡山明副委員長 今言われた4億8,000万。最低価格じゃないけどこれは調査基準価格という状況で落札が3億2,000万でしょ。この開きというのがすごいあるから、その辺が、いかがですかという話なんです。それに対して、最低価格を下回っているんじゃないかという話なんです。

中村監理室技監 その金額の調査基準価格の予定価格から算出しておるんですが、この予定価格の算定が先ほども申しましたが、予定価格に占める見積りの割合がたしか4億くらいあると聞いております。見積りの額が低い業者さんもおれば、高い業者さんもいる。それと工場の稼働率ですとかいろんな側面があるんじゃないかなと考えております。その分を、総合的に考慮されて入札に望まれてこの価格なら、利益も出るってということで入札されたってということで今回落札されたってということだと考えております。

中村博行委員長 結局はそれだけで差があっても問題はないという、最終的な判断ということですね。

中村監理室技監 その通りだと思っております。

岡山明副委員長 そういう状況の中で予定価格が5億8,000万でしょう。それで先ほど本会議で話したのが、その金額は高すぎるんじゃないかと

いう話をされましたよね。そういう状況でそういう調査も問題ない。4億円がそのラインである。その部分が最初の設計の状況で5億8,000万がいかかですかっていうであったと思うんです。それが、どうなんですかとまた戻るようで申し訳ないですが。その間にするとそこまでいくという状況なんですけども、また堂々巡りで。それが実際に5億8,000万が適正の価格かという判断基準がどこから出ているのか。

中村監理室技監 予定価格に際しまして4社から見積りが出まして、それによって決定されたってということなんです、多分その見積りが出されたときは、一般的にこれぐらいがベストだろうということで、見積りを出されたんじゃないかと考えられますが、その後先ほども申しましたが、工場の稼働率ですとか現場の配置ですとか、いろんな状況を加味して、入札にはこれぐらいでいけるんじゃないかということだと私は考えております。

藤岡修美委員 安川電機太陽産業の共同企業体で取られたということで、安川電機さんは当初の見積りには加わっておられたんですか。

小路下水道課工務係長 メーカーの見積りを取りました4者のほうに安川電機さんは入っていらっしやいます。

藤岡修美委員 低価格入札なので調査基準価格を下回った入札ということで安川電機さんから多分もう一回見積り取られて、当初安川電機さんの見積りも参考にされた設計書と低入札調査で出された資料で一応出ると思うんですが、比較されてみて何が一番違っていたか分かりますか。

小路下水道課工務係長 設計書を作る条件としましては、今回であれば4社出てきました見積りの価格の平均をとりまして、その上下を異常値ということで上は130%、下は70%、それを切った上で、異常値をはじいたものをまた平均値をとるということを採用単価として使っております。

すので、全てが安川電機さんの見積りの採用金額にはなっておりませんので、逆にほかの三者がちょっと高い金額の見積りが出て安川電機さんが仮に安い金額で出た場合は安川電機さんの価格が逆に異常値ということで、はじかれて予定価格ができてしまいますので、一概には高い安いというところで比較検討ができないところでもあります。

藤岡修美委員 現実に当初の安川電機の見積価格と今回低入調査で出された安川電機さんの価格で大きく違っているものがありますか。

小路下水道課工務係長 大きく分けて、ポンプが非常に金額を占めている部分と発電機が金額を占めているという部分がありますが、これはどちらの部分に関しても当初よりは大幅に金額を安く抑えられた内訳書が出ております。

河崎平男委員 ポンプ、発電機等はどこで作られるんですか。

小路下水道課工務係長 まだ契約後に機器の承諾函等が出てきますので、発注段階ではメーカー指定等を行っておりませんが、安川電機自体が北九州の業者となりますので、九州のほうで作ることになるかと思います。

河崎平男委員 ポンプも。

小路下水道課工務係長 九州にもポンプメーカーがありますので、そちらのほうで手配されると考えております。

河崎平男委員 出来上がりの完成品っていうのは、行政から検査っていうのは行かれるんですか。

小路下水道課工務係長 現段階でも大きい工事のものとして、持ってきて不具合があって返せないようなものに関しましては、工場検査を担当職員、

監理室 1 名ずつ、合計 2 名で工場検査を行っております。

岡山明副委員長 落札っていうか入札された企業の実績は確認されていますか。

小路下水道課工務係長 今回の J V の条件の中にもありますが、近年、ポンプ場の実績がある業者のみ J V で候補としては出てくるんですが、小野田の施設に関しましても、刈谷の排水機場、小野田水処理センターも安川電機さんの受電盤等を行っておりますので、山陽小野田市の実績としても、近年ある業者になります。

岡山明副委員長 自家発が設置されているんですね。ポンプ 3 台目で初めてこの自家発が設置されるんですか。今までは受電の形だったのか。

小路下水道課工務係長 今までもこの施設は自家発でのポンプ始動という形になっておりまして、高圧受電は行ってない施設となります。それで今回新たに今、1 号機 2 号機が設置してあります。それで今回は 3 号機を設置しまして、最終的には 5 号機まで毎秒 5 トンの計画がありまして、今回の発電機に関しましては 5 台を制御できるような大きさの発電機を納めていただく工事となっております。

岡山明副委員長 今回 3 機目ですね。今 2 台に関しては、受電という形で自家発じゃないですね。

小路下水道課工務係長 2 台に関しましても自家発です。自家発が 2 台用の自家発で小さいものがありまして、それで、今ポンプ始動を行っております。

岡山明副委員長 既設 2 台に関しては同じく自家発電と。また将来的には 5 台まで見込まれて今回自家発の発電機を付けると。そういう部分で問題になるのが緊急時の稼働で、その辺の今までトラブルとかはないという状

況ですか。

小路下水道課工務係長 安川電機さんという意味では、今、自家発というものがエンジン部分はほとんどヤンマー、もしくはダイハツしか国内は作っておりません。それに対しまして安川電機さんがエンジンにつながる発電機部分を製作してございまして、ずっと小野田水処理センターも24時間汚水が流れてきますので、こちらのほうに発電機が設置してございまして、こちらのほうに安川電機製が入っているんですが、昭和54年の下水が始まった当初から、メンテを行ってございまして、特別、自家発電のトラブルということは、特別大きなトラブルになっているケースはありません。

岡山明副委員長 これ自家発なんですけど。毎年というとおかしいんですけど、停電、ほかの地域が全部落ちててもここは自家発ということで、全てその地区が、下津地区が停電しても、このポンプは自家発ということで起動するという、その辺は問題ないですね。

小路下水道課工務係長 自家発という部分にしましては、もう売電とは全く切り離されていますので、近隣の停電にしましてはポンプ起動にしましては、何も問題なく起動ができます。

岡山明副委員長 じゃあもう自家発は、無停電装置は付いているということで起動するというので間違いないと。そういう今までの2台にしましては、同じ条件でトラブルはなかったということですね。

小路下水道課工務係長 はい、そのとおりです。問題ないと考えております。

水津治委員 燃料タンクが8,000リッターということで、3台がすべて稼動した場合、この8,000リッターでどのくらい時間が使えるのか。

小路下水道課工務係長 今回の自家発の大きさ的には1,000KVAという

サイズを持ってきまして、これがフルに回ることによって5台のポンプが回ります。フルに回った場合に、今8,000リッターの燃料タンクにA重油という重油が入っておるんですが、こちらのほうが1時間当たり240リッター消費しますので、単純計算でフル運転したとしても33時間、満タンであれば、丸1日以上は回る計算になっております。

奥良秀委員 入札の単価の件なんですけど、一式で一番大きい金額は何なのでしょう。

小路下水道課工務係長 一式で一番大きい金額になりますと、発電機が一番大きい金額となります。

奥良秀委員 その一式で、要は予定価格と、今回入札されて落札された金額の一式の開きっていうのはちなみにどのぐらいの金額がありますか。それと、あと、できれば上限下限を教えてもらったら助かります。

中村監理室技監 先ほど奥議員から御質問があった件なんですけど。市内業者が今8社ということで、準市内業者が2社、電気業者として、入札に参加しておられます。以上です。

中村博行委員長 これ全部で10社という意味ですか。8社のうちの2社ですか。

中村監理室技監 全部で10社なんですけど、市内業者は8社ですので、このたびの入札の市内業者ということになれば8社ということになります。

奥良秀委員 8社で1社ということですかね。

中村監理室技監 このたび8社のうち1社ということになります。

奥良秀委員　ちなみにほかの7社がなぜ入れなかったかというのは調べられてないですね。

中村監理室技監　大手業者さんから問合せがありまして、入札に参加されなかった方がいらっしゃいましたので、公募後、聞き取りをした業者さんもいらっしゃいました。その結果、業者さんが言われるには、技術者の方がいないということで、JVを組むことができなかったっていうようなことを説明されていまして。要は、山陽小野田市の市内業者さんが技術者の割当てができないっていうことです。

岡山明副委員長　入札もあるんですけども。それとともにメンテナンスの部分が入ってくると思うんです。金額も億という金額の発電機とかポンプとかも設置される状況で、そのメンテナンスの部分に対しての選択肢というか、その辺は入札の金額でメンテナンスまでは話が考慮してないということで、メンテナンスはどう考えられているかその辺をお聞きしたいのですが。

榎坂建設部次長兼土木課長　今回は工事だけです。メンテナンスについては別途またやります。

小路下水道課工務係長　先ほどの一番大きい一式の塊としましては、設計書上は、先ほどの自家発装置で、こちらが、設計金額が1億1,400万の設計金額に対して、入札業者の内訳書でいきますと、それが7,500万ぐらい、やはり落札率に近い辺りまで低く抑えられて入札に参加されております。それと見積りの入手したときの一番、今の1億1,400万の採用金額になる、元の金額の最大金額としましては1億7,400万円。その最低金額は1億1,300万円という約6,000万ぐらいの開きがありました。

奥良秀委員　なぜこれが言いたかったかというのと、今回、この金額が3億2,

000万ですね、中で、一式が一番大きいところが一番ウエートが高くなってくるんですよね。だから、やはり、もうこういう丸い数字を見ると、んってというような感じになるんですよね。だから、やっぱりそういうところもきちんと見てもらわないと、先ほど議場で話があったような、設計が甘いんじゃないのというような話に戻っていくんで、その辺は、これはもう入札後の話なんであれなんですけど、今後、こういったことがあるのであれば、もう少し落札が65%とか、そういった金額にならないように。また、余りにも入札金額と、市役所が出している見積り等々に差がないようにしていくのは、これは努力だと思いますが、いかがでしょう。

小路下水道課工務係長　今回、設計書を作る上で、下水道課に執行委任をさせていただきまして、下水道課の設計の工事の考え方で、今の見積り採用金額を決めております。その中で、今までやっている現状としましても先ほどお伝えしたように、最初に平均値をとって、上下30%の異常値をはじいた上で、それで平均値を作るんですが、そこに対して、私たちがそのまま見積書をうのみにするわけではなくて、そこから査定率というものを掛けるように、これは国からも指導を受けておりまして、査定率を掛けておりますので、平均値という販売価格をそのまま採用しているわけではないんですが、今回のケースに関しましては、下水道課で発注するこの電気機械設備に関しましては、この近年、その査定率を掛けた上で入札に参加していただいて、低入札調査になったことがなかったもので今回同じように設計書を製作しているんですが、今回のような、やはり余りにもかけ離れた数字が、今後出てくるようですと、とった金額、採用金額に関しての査定率の考え方を見直していく必要があると思っております。

奥良秀委員　これだけ安い金額でとられたんですが、先ほど委員長のほうも言われましたが、このことによって、手戻りじゃないですけど、工期に間に合わないとか、そういったことがないように指導のほどよろしくお願

いします。

中村博行委員長 今年度末までに1トン1基ということで、あと、2基ですよ  
ね。これは来年度っていうことでいいんですかね。

榎坂建設部次長 今年度末ではなくて、32年の3月31日までということに  
なります。

中村博行委員長 それまでに全部3基を付けるっていうことですか。

榎坂建設部次長兼土木課長 そうではなくて、債務負担行為によりまして今回  
発注した工事は、32年の3月31日までで1基が付いて、次年度発注  
する工事で1基が付きまして、最終年度の32年度の工事で1基が付く。  
都合3基が32年度末。だから平成33年の3月頃までに3台がそろっ  
ということでございます。

中村博行委員長 全部完了するのは32年度末ということですね。完了は。

水津治委員 私、勘違いしておりまして、最後の1基と思ったんですが、最初  
の1基なんですね。そうするとよく家庭の生活の中にもあるんですが、  
最初に買った機械を1台増やそうと思えば、その同機種、同じメーカー  
でないといけんとか、ある程度制限が加わって、増設することが難しい  
ことが多々あるんですよね。そういった中で、今回安くできたけど、2  
基目、3基目のときに、手段で方法がそれによって高い2基目、3基目  
にならないようなチェックはしておられますか。

小路下水道課工務係長 引き続き4号機、5号機の発注予定となりますが、今  
回のポンプに関しましては、単純に始動だけを目的としていますので、  
4号機、5号機、今の3号機も含めて、3メーカーになるケースも十分  
に考えられます。

中村博行委員長 柔軟にやられているということですね。それと安全、工事の際、場所が非常に狭小なところであるということですね。工事の監理体制ってというのは十分考慮されているということですか。

榎坂建設部次長兼土木課長 東下津地区の内水対策工事につきましては、全て自前で行いますので、土木工事については土木課、電気機械設備については下水道課ということになりますので、全て市の職員で対応いたします。

中村博行委員長 ほかには、よろしいですか。（「なし」と呼ぶ者あり）それでは、質疑をここで打ち切ります。討論ございますか。（「なし」と呼ぶ者あり）討論がないようですので採決に移ります。それでは議案第88号東下津地区内水対策施設整備工事（電気機械設備工事）請負契約の締結について賛成の方の挙手を求めます。

（賛成者挙手）

中村博行委員長 全員賛成です。したがって、議案第88号は可決すべきものと決しました。お疲れ様でした。それでは、以上で、産業建設常任委員会を閉じます。

---

午後3時28分 閉会

---

平成30年9月26日

産業建設常任委員長 中村博行